

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	科学実験教室推進事業	会計	一般会計	事業No.	742	施策順No.	28-002
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-1-10-4		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	28 学習交流活動の推進			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小・中学校(児童、生徒及び教員)、市民(親、地域の役員等)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		児童・生徒数		9639	9559	9352	9332	
		飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000	
意図	児童、生徒が科学の楽しさや不思議さを学び、興味を持ってもらう。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	出前工房参加者数	1613	2000	3488	2000	2605	2000	A
	科学実験教室参加者数							
	理科実験ミュージアム参加者数	3255	4000	4303	4000	4680	4000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ詳細】	活動についても認知度が上がってきており、いずれも事業の目標の参加者数上回った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	科学ボランティアグループ「おもしろ科学工房」の活動により、児童、生徒、市民に科学のおもしろさや不思議さを体験してもらうため、科学実験教室を開催する。 ・理科実験ミュージアムを開催し、親子に科学実験の体験をしてもらう。 ・出前工房(出前方式の科学実験教室)や科学実験講座を通じて学校、地域へ理科実験を広げる。 一連の活動に対し、飯田市出身サイエンスプロデューサーである後藤道夫先生の指導、助言を受け、より充実した活動となるようにしていく。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 おもしろ科学工房スタッフによる理科実験ミュージアムの開催 2 おもしろ科学工房スタッフによる出前工房、科学実験講座等の実施 3 後藤道夫先生(飯田市出身サイエンスプロデューサー)による指導、助言	1 開催数 2 実施回数 3 指導、助言の回数	1 50回 2 30回 3 4回
23年度実施計画	1 おもしろ科学工房スタッフによる理科実験ミュージアムの開催 2 おもしろ科学工房スタッフによる出前工房、科学実験講座等の実施 3 後藤道夫先生(飯田市出身サイエンスプロデューサー)による指導、助言	1 開催数 2 実施回数 3 指導、助言の回数	1 50回 2 30回 3 4回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,514	1,484	1,438		
計(A)		1,514	1,484	1,438		
正規職員所要時間			200			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			715			
トータルコスト A+B			2,199			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 「巡回科学実験教室」は児童生徒及び教員から好評である。 「理科実験ミュージアム」は参加者の満足を得ている。(アンケート結果)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①市民が学びの機会を得ることができる ②学びから多様なネットワークが広がる ③社会活動に主体的に参加する	施策の成果指標又はムトス指標	学習活動を行っている市民の割合 社会活動に参画する市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	科学実験を通じて市民に学びの機会を提供し、楽しみながら実験することで学習意欲の向上に繋がった。また、ボランティアを中心としたスタッフが関わるにより様々な人材ネットワークが広がり、社会活動に主体的に参加することに繋がった。		
	後期に向けた課題	各地域にある科学に関する団体等の協力も得ながら、学習の機会を増やしていく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業のアンケートを実施し、参加者の要望等を把握し事業の活かした。事業等の周知等を小・中学校、公民館等への積極的な広報活動を行った。		
	後期に向けた課題	毎月の理科実験ミュージアムの開催について、かざこし子どもの森公園内での周知も必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	連絡については、電子メール等を利用し経費の削減に努めてきた。		
	後期に向けた課題	資料の簡素化、紙媒体の広報でなく電子媒体を多く利用して経費の削減に努めていく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	受益者は児童、生徒、一般市民であり、出前工房については、材料代等の負担を頂いている。事業の内容には直接職員は関係していない。		
	後期に向けた課題	出前工房については、今後も受益者負担を行っていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果た しましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政 はどのような働きかけをしましたか、又は、配 慮しましたか	4年間の振り返り	①おもしろ科学工房ボランティアスタッフ、理科実験ミュージアムの運営、おもしろ科学大実験、特別講座の開催、出前工房を実施。 ②補助金の交付。ボランティアスタッフの活動のため、事業への協力ではなく、スタッフ会等への支援を行った。		
	後期に向けた課題	事業の計画立案については、おもしろ科学工房のボランティアスタッフが主体的に行っており、行政としては、スタッフが活動しやすいように支援を行っていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	サイエンスプロデューサー後藤道夫先生をサポートするために結成された「おもしろ科学工房」を11年目を向かえ、各ボランティアスタッフが3名のリーダーを中止として主体的に活動が出来ている。子ども達に、科学を通じた様々な体験活動を通じて学習活動の機会を展開してきた。		
	後期に向けた課題	後藤道夫先生を高齢であるため、後任のアドバイザーについても考慮すべき時期に来ている。おもしろ科学大実験のサイエンスショーは、後藤先生の紹介により、招聘をして講師をお願いしているため、招聘講師との繋がりをもっていく。またボランティアスタッフを募集を行い。おもしろ科学工房の体制についても充実させていく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------